



データベースの概要

処方薬から推測される適応病名と、その適応病名が禁忌である薬品同士を関連付けたデータベースです。
薬品同士の組み合わせの矛盾をチェックすることが可能です。

本データベースは、医療用医薬品の添付文書に記載されている全ての適応病名と禁忌病名の組み合わせを網羅しています。

データベースの特徴

薬品の組み合わせから処方の矛盾を推測

添付文書に記載されている適応病名と禁忌病名の情報をもとにデータを作成しています。

例

『レキップ錠 1 mg』の添付文書（抜粋）

【効能・効果】

パーキンソン病

『レキップ錠 1 mg』の適応病名「パーキンソン病」と
『セレネース錠 1 mg』の禁忌病名「パーキンソン病」が矛盾

禁止

『セレネース錠 1 mg』の添付文書（抜粋）

【禁忌】

パーキンソン病の患者〔錐体外路症状が悪化するおそれがある。〕

表現の異なる病名表記に対応

適応病名と禁忌病名の表現が異なる疾患の処方矛盾についても対応しているため、漏れなくチェックを行うことが可能です。

例

『ガスターD錠 20 mg』の添付文書（抜粋）

【効能・効果】

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、上部消化管出血（消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍、出血性胃炎による）、逆流性食道炎、Zollinger-Ellison 症候群

『ガスターD錠 20 mg』の適応病名
「胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、消化性潰瘍、急性ストレス潰瘍」と
『ロキソニン錠 60 mg』の禁忌病名「消化性潰瘍」が矛盾

禁止

『ロキソニン錠 60 mg』の添付文書（抜粋）

【禁忌】

消化性潰瘍のある患者〔プロスタグランジン生合成抑制により、胃の血流量が減少し消化性潰瘍が悪化することがある。〕

適応の対象とならない疾患の情報に対応

適応の対象にならないと記載されている疾患と、その疾患に適応がある薬品が処方された場合の処方矛盾についても対応しています。

例

『テグレトール錠100mg』の添付文書（抜粋）

【効能又は効果】

躁病、**躁うつ病**の躁状態、**統合失調症**の興奮状態

『テグレトール錠100mg』の適応病名「躁うつ病、統合失調症」と
『マイスリー錠10mg』に有効性がない
「統合失調症・躁うつ病に伴う不眠症」が矛盾

有効性未確立

『マイスリー錠10mg』の添付文書（抜粋）

<効能・効果に関連する使用上の注意>

本剤の投与は、不眠症の原疾患を確定してから行うこと。なお、**統合失調症**あるいは**躁うつ病に伴う不眠症**には本剤の有効性は期待できない。

禁忌項目以外の記載に対応

添付文書の【禁忌】や【原則禁忌】以外の項目に記載された情報についても、漏れなくチェックを行うことが可能です。

例

『イナビル吸入粉末剤20mg』の添付文書（抜粋）

【効能・効果】

A型又はB型インフルエンザウイルス感染症の治療及びその予防

『イナビル吸入粉末剤20mg』の適応病名
「A型又はB型インフルエンザウイルス感染症」と
『P L 配合顆粒』の禁忌病名「15歳未満のインフルエンザ」が矛盾

原則禁止

『P L 配合顆粒』の添付文書（抜粋）

【重要な基本的注意】

サリチル酸系製剤の使用実態は我が国と異なるものの、米国においてサリチル酸系製剤とライ症候群との関連性を示す疫学調査報告があるので、本剤を**15歳未満の水痘、インフルエンザ**の患者に投与しないことを原則とするが、やむを得ず投与する場合には、慎重に投与し、投与後の患者の状態を十分に観察すること。

個別指導における指摘内容に対応

処方矛盾に該当する情報の中から、各厚生（支）局から発表された指摘内容に絞り込んでチェックを行うことが可能です。

例

平成28年度に実施した個別指導において保険薬局に改善を求めた主な指摘事項（東北厚生支局（抜粋））

I 調剤全般に関する事項

3. 処方内容に関する薬学的確認

(1) 処方内容について確認を適切に行っていない（処方医への疑義照会を行っているものの、その内容等を処方せん又は調剤録に記載していないものを含む。）次の事例が認められたので改めること。

① 薬剤の処方内容より禁忌例への使用が疑われるもの

- 例：重症筋無力症が疑われる患者に対するサイレース錠 1mg
- ：消化性潰瘍が疑われる患者に対するセレスタミン配合錠
- ：消化性潰瘍が疑われる患者に対するロキソプロフェンナトリウム錠
- ：前立腺肥大が疑われる患者に対する PL 配合顆粒
- ：閉塞隅角緑内障が疑われる患者に対するベシケア OD 錠 5mg

緑内障の治療薬「ルミガン点眼液」に対する「ベシケアOD錠」の処方矛盾チェック
『ルミガン点眼液0.03%』の添付文書（抜粋）

【効能・効果】

緑内障、高眼圧症

『ルミガン点眼液0.03%』の適応病名「緑内障、高眼圧症」と
『ベシケアOD錠5mg』の禁忌病名「閉塞隅角緑内障」が矛盾

禁止


『ベシケアOD錠5mg』の添付文書（抜粋）

【禁忌】

閉塞隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化するおそれがある。〕

4段階のレベル分け

処方矛盾の情報を以下の4段階のレベルに区分しているため、選択したレベルの範囲でチェックを行うことが可能です。

高	レベル	添付文書の記載表現
	禁止	禁忌、禁止、投与しない、投与を避ける など
	原則禁止	原則禁忌、原則として禁止、原則として投与しない など
	相対禁止	有益性が危険性を上回る場合にのみ投与 など
	希望禁止	投与しないことが望ましい など
低		

例

『フルツロンカプセル200』の添付文書（抜粋）

【効能・効果】

○胃癌、結腸・直腸癌、乳癌、子宮頸癌、**膀胱癌**

『フルツロンカプセル200』の適応病名「膀胱癌」と
『アクトス錠15』の禁忌病名「膀胱癌」が矛盾

相対禁止

『アクトス錠15』の添付文書（抜粋）

【重要な基本的注意】

膀胱癌の既往を有する患者には本剤の有効性及び危険性を十分に勘案した上で、投与の可否を慎重に判断すること。

データベースの機能

処方矛盾をチェック

投与する薬品の適応病名から患者さんの疾患（病名）を推測するため、患者さんの疾患（病名）が不明の場合でも投与制限に関するチェックを行うことが可能です。

処方内容の監査や患者さんへの服薬指導にご利用いただけます。

なお、複数の適応病名をもつ薬品では、患者さんの疾患が処方矛盾に該当しない適応病名の場合もあるため、患者さんの病名について確認する必要があります。

例

『エブランチルカプセル15mg』の添付文書（抜粋）

【効能・効果】

1. 本態性高血圧症、腎性高血圧症、褐色細胞腫による高血圧症
2. **前立腺肥大症**に伴う排尿障害
3. 神経因性膀胱に伴う排尿困難

『エブランチルカプセル15mg』の適応病名「前立腺肥大症」と
『PL配合顆粒』の禁忌病名「前立腺肥大」が矛盾

禁止

『PL配合顆粒』の添付文書（抜粋）

【禁忌】

前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者 [本剤中のプロメタジンメチレンジサリチル酸塩は抗コリン作用を有し、排尿困難を悪化させるおそれがある。]